

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197600356		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家六番館		
所在地	石狩市花川北6条3丁目16番地		
自己評価作成日	平成26年12月5日	評価結果市町村受理日	平成27年1月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

石狩市花川の閑静な住宅に立地する地域に溶け込んだグループホームです。小規模多機能型居宅介護『コミュニティ若葉』サービス付き高齢者向け住宅『パートナーハイツイしかり』と併設しております。近郊にお住まいだった方がご入居されるケースがほとんどのため、なじみのスーパーへの買物外出や、地域行事への参加にみなさんが喜ばれています。3Fかしわでは「楽しく明るいフロア」をモットーに、一人一人の安心に沿えるケアを心がけるとともに、ご家族様・かかりつけ医師・病院ソーシャルワーカーなどと密な話し合いを行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0197600356-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0197600356-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 12 月 15 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念「共に生き、共に感じあえる」をベースに、フロア目標として「楽しく明るいフロア」を目指している。入居者様との関わりに重きを置き、全員が工夫した支援を展開するため日々意見交換と共有を意識している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の花壇作業などにスタッフと入居者様と一緒に参加し、地域のまつりにも参加し交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談だけでなく、先々を見据えた施設探しや在宅介護で困っていることなど介護にかかわる全般的な相談に対しても随時お聞きしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会場では、写真だけでなく、季節・衛生・地域情報・認知症の学びなどを交えて展開していて、認知症の学びについては家族様の率直な質問や相談をみなさんとシェアする大変貴重な機会となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で包括・高齢者支援課の職員さんが参加されており、また何かあった際は【りんくる】に相談できようような関係性が密にとれている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や法人内の身体拘束抑制廃止推進委員会で学んだことより、明らかにしてはいけないことはイメージできている。基本は自分がそれをされたらどう感じるかということ。立場を自分にあてはめて考えることが大切と思う。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	6と同様だが、委員会の学びを委員よりスタッフへ周知を行っている。フロア内では日常的な対応や声かけからスタッフ同士注意や指摘し合うよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前研修で学んだことではあるが、実際この2つについて活用された事例はない。成年後見制度については、今年度より石狩市で成年後見センターが設立されたこともあるので、改めて学ぶ機会を設けていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に必ず契約書の読み合わせを行い、疑問や不安な事があれば小さなことでも解消するよう努めています。ご家族様が心配されることとしては「どの状態までホームで暮らしていくことができるのか」「病院付添とかもホームでやってくれるのか」ということが多いようです。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で直接意見を出していただく場面もあれば、ご家族様と日頃お話する中でいただく意見についても運営推進会議で他の方から意見をいただくことがあります。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者とリーダーが定期的にミーティングを行い、現場からあがっている意見などについて話し合いを行います。また、個別に職員との面談を行い、他スタッフの前では言いづらいことなどを率直に聞ける場面をつくっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	規定に基づいたベースアップ（勤続年数に応じた）だけでなく、期間を定めた集中的実習（OJT）を行い、スタッフ自身が目指す仕事像に向かって一緒に取り組む姿勢を大切にしています。また、法人研修や親睦会を通じ、他事業所のスタッフともつながりをもっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上記項目に準じる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	専門職同士のつながりとして。いしまちひろばへの参加、地域ケア会議の参加、およびケアカフェへの参加などを通じて、参加メンバーや場面が異なるいろんなシチュエーションで意見交換、および協力関係をつくる機会をいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーが事前に本人・家族様から入居にあたっての不安・要望を聞き、フロアスタッフでケアカンファレンスを行い共有し、入居者様の生活に不安のないよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様より、以前の生活での困りごとなどを聞き、ホームでの生活における対応に活かし、ご本人様との信頼関係を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	外部からの介護サービス利用をしているケースはないが、同建物の小規模多機能サービスに一芸ボランティアさん（歌や踊りなど）が訪問された際は鑑賞レクに参加している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる方については、食器拭きなどを手伝ってもらい、野菜の皮むきも共に行ったりしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の現状を家族様に伝え、以前の本人の生活のことや生活を聞き、またアドバイスをしてもらいケアに活かすなどご本人様がホーム職員とともに取り組んでいく関係がつくれている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状、ADLがしっかりしている方は家族協力のもと馴染みの場に行けるがADL低下に伴いできてない場合が増えてきている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂あるいは居室で入居者様同士が談話していたり、みんなで外出レクをするなど他入居者様同士も楽しめる環境をつくれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	療養病床へ移ったり、入院先で死去されるケースがあるが、その後も本人に会いに行ったり家族様に写真を渡しに行ったりフォローを大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族様とのコミュニケーションを通じ、希望や意向の把握に努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報の収集、ご本人様・ご家族様との面談、生活をしながら馴染みの暮らし方を知る努力を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務者同士の引き継ぎより把握、必要時は個別に随時カンファレンスを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者様の状況に合わせ、ご本人様、ご家族様、必要関係者と話し合いをできている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の記入、申し送り、定期的なカンファレンスの中、必要時個別カンファレンスを実施し見直し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	随時、柔軟なカンファレンスを行い、サービスを展開している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	石狩市各関係事業所の行事参加や、ちまたの店の利用など積極的に行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様、主治医と常に連携を取り、適切な医療を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や訪問看護師の訪問は行っていないが、往診やかかりつけ医と情報共有していて、入居者様についていつもと違う状況があれば電話相談をした上で通院を行うなど、密な連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後は面会の際、さりげなく本人の状況を見たり病棟職員さんに最近の病状やADLなど情報を聞き、その情報は他スタッフとも共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設では、看護師が常駐していないことから、看取りをじっしていないことや、常時医療処置が必要な場合はホームでの生活が難しいことをお伝えしている。特に入院や食欲減退・病状が悪化した際は、ご家族様の不安を受け止めながら説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を普段からスタッフ同士話あったり、定期的に応急手当の訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練を、スタッフ・入居者様・近隣にお住まいの方も参加し定期的実施しています。また、法人でも委員会があり、避難訓練の取り組みだけでなく、救命講習の実施や、地震水害などの災害に対する知識と施設としての取り組みを話し合っています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	子供扱いする声かけをしないのはもちろんのこと、本人の生き方ポリシーに対し、認知症の症状が進んだとしても本人の大切にしている部分には十分配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から本人の希望を聞き出し実施したり、認知症によりやりたいことを表現できない方であっても、生活歴などから充実できそうなことを行い支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースやスタイルは違うため、食事の時間やレク・行事ごと以外は、本人のペースで休息・余暇を過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目にタンスの衣服の衣替えを家族様にお願いしている。日常、自分で衣類が決める方は、本人の希望通りの服、できない方でもスタッフが毎日清潔な服を着ていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きや片付けは一緒に行ってもらい、盛り付けや食材を切るなどの手伝いを楽しみながら行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別にニーズに沿った食事形態をとり、水分摂取はゼリーにしたりトロミをつけるなど工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の方は毎食後洗っている。声かけが負担に感じる方については、起床時と就寝前に行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立でトイレでの排泄ができない方は、2～3時間おきにトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を多めにとっていたり、個々に活動機会をつくり体操などで身体を動かすなどしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の体調に応じ、入浴していただいている。1人週2回を基本におこなっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望、体調を確認した上で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は、通院担当者から情報を聞いている。薬の作用や留意点を理解するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のニーズに合わせて買物へ一緒に出かけたり、また洗濯をスタッフとするなど役割をもって生活していただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に合わせて、行ける範囲、体制であればシフト調整などもし、いけるよう心がけている。また、家族様との外出はえんりょなく行っていただいている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室に金庫などはないため、ホーム事務所で預かり金を預かっている。そこから、本人の希望するものや必要なものを買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話からも直接本人と家族様が話せるようになっている。また、不定期に【ハート便】という日常の写真をのせた新聞を家族様に送り、生活状況が見えるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は様々な用途にあわせ席配置は替えるが、できるだけ本人が混乱しないよう配慮している。また、季節感のある装飾をつくり、皆が楽しめるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では、気の合う利用者同士が話せる配置を心がけ、他にもソファでくつろげるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様協力のもと、なじみのある物を置いてみたり写真など見て楽しめる物を壁にかけたり工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂の前にはわかりやすいような看板を掲示し、視覚への配慮はもちろん、耳が遠い方も多いため、コミュニケーションにおいては表情とジェスチャーを意識して大胆にうなど、入居者様にあんしんしてもらえよう工夫している。		